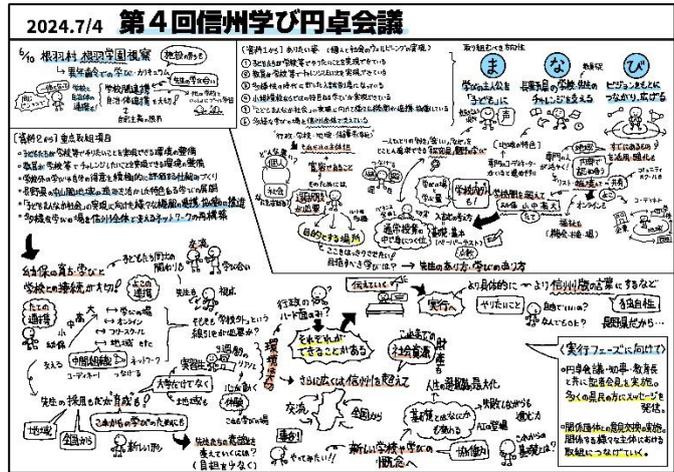


第4回信州学び円卓会議の概要

■概要

実施日程	令和6年7月4日(木) 10:00~12:00
場所	長野上水内教育会館 2階 大会議室
出席者	・円卓会議委員12名(内オンライン1名) ※別紙名簿のとおり ・阿部知事(オブザーバー)、武田教育長(オブザーバー)
会の目的	ありたい姿の実現に向けた取組の方向性について議論

■当日の様子



■主な意見

- ・村や行政区の中できちんと教育に関するビジョンを策定していくということが重要。
- ・一般行政と教育行政との連携・協働の在り方を具体的に推進していく必要がある。
- ・専門組織の新設は非常にハードルが高い。既存の組織・団体のより強固な連携からでも先生方を支援していく仕組みに繋がるのではないかな。
- ・組織の中で一生懸命やると浮いてしまうことがあり、そういう先生を支援するような雰囲気づくりが大事。
- ・住民で専門的な知識・技能を持っている人のリストをつくり、他の地域でも活用できるような取組ができるといい。
- ・教員不足の課題は県教委のみならず県全体で考えていく必要がある。
- ・「主体的・対話的に学ぶ」という言葉は、通常の授業の充実というところが強調される書きぶり。目指す方向として、「好き」「楽しい」「なぜ」を追求できる探究という部分にクローズアップしていく捉えを共通認識としたほうがいい。
- ・小中高大、学校間を越えて連携していく仕組みがあり、ここに自治体や企業、研究機関等も含めて連携・協働が図られるといい。
- ・今年度から高校の前期試験にペーパー試験が課される。「多様性の時代に即した入試制度になっている」に逆行してしまわないか心配。
- ・学びの場が増えるのはいいが、それを学校内に置くのか、学校外にするのか。それによって先生

たちの負担が増えることにならないようにしたほうがよい。

- ・行政がやるべきことがかなり濃厚に出ていて、もう少し家庭、地域とか、保護者も含めた取組を促す記載が入ってくるといい。
- ・今後探究的な入試に変わっていくと思うが、今は過渡期でその不安感が先生方の負担になっているのではないか。
- ・学校とフリースクールのみならず、地域、福祉、医療も一緒に、地域全体で意見交換をして学びの場をつくっていくことが大事。
- ・「学校内外の学びの選択肢、機会の創出」について、機会ができてもお金が無くいけない子やフリースクールの体制が整わずに満足な支援ができないということもあるため、そのような制度も創出できるとよい。
- ・こどもまんなか社会を考えたときに、積極的な子も消極的な子も、学校に行っている子も学校以外の学びを選んでいる子も等しく自分たちの意見を言える場所、仕組みや制度が必要。
- ・みんなで長野県の教育をこんな方向でやっていきたいとしていくためには、そういう雰囲気、状況をつくっていくことが大事。そのベースには寛容であることが必要。
- ・長野県が目指す教育、提供する学びはこういうものだというのを、もう少し具体的にしていかなければいけない。
- ・今後は専門部会やワーキンググループなどで、着実に具現化をしていくための進め方も必要ではないか。
- ・保育園・幼稚園と小学校の接続も重要。
- ・最近ではフリースクールなど学びの場は自由になってきている。学校だけではない、少し広げた概念で考えていただけるといい。
- ・大学のみならず、地域、学校と連携し、より地域と密着した教員養成を考え、実現していかななくてはいけない。教員養成についても考えていただきたい。
- ・教育実習生が子どもと一緒に過ごす中で心を動かされたりする姿を見ている。多様な学びの場ということは学校や受験以外にも含めてもっと大きな視点で見たい。
- ・学校の中でも外でも評価されている子、されていない子はいる。「学校外の学び」ではなく、一人一人に合ったとか、多様とか、発達年齢などの表現のほうがいいのではないか。
- ・先行事例の紹介など、現場の教員がこれからこんなふうにやっていきたいなという思いが持てるような取組も必要。
- ・長野県は隣接する県が多く、県境の地域では県外との交流も盛んで一つの特色。「地域・社会資源の積極的な活用」の部分で、県内のみならず周辺の県外との交流なども含めて考えていけるとよい。
- ・「やりたいことを実現できる」とは一体どういうことなのかということ、もう少し具体的にしていかないと多くの人たちの共感が得られない。

■座長のまとめ

- ・メッセージ発信や関係団体との意見交換を通じて、円卓会議の議論の内容を多くの県民に理解していただき、関係する様々な主体における取組につなげていく。

第4回信州学び円卓会議 出席者名簿

(50音順)

職 名	氏 名	備 考
信州大学教職支援センター准教授	荒井英治郎	座 長
軽井沢風越学園校長	岩瀬直樹	欠 席
松本大学教育学部教職支援室専門員	浦野憲一郎	
根羽村長	大久保憲一	
(公社)信濃教育会会長	大日方貞一	
(学)白馬インターナショナルスクール理事長	草本朋子	欠 席
長野県市町村教育委員会連絡協議会会長 長野市教育長職務代理者	近藤守	
NPO法人 Hug 代表	篠田阿依	オンライン
山ノ内町教育長	竹内延彦	
上田市立第五中学校校長	畠山正幸	
須坂市長	三木正夫	
松本市立波田小学校校長	三輪千子	
信州大学教育学部学部長	村松浩幸	
長野県野沢北高等学校校長	柳沢 敬	